

保護者の皆様

本校の教育活動に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
本年度の学校教育評価を下記の通り公表させていただきます。
今回の結果を、次年度の学校経営に生かしていきたいと思いますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。
芦原小学校長 山岸 直樹

令和6年度 芦原小学校学校評価書

▲は目標指数を達成できなかった項目					
項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数(%)	結果(%)
健康・安全	家庭と連携し、「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」の定着に取り組む	教職員	児童や家庭に啓発を積極的に行った	90	100
		児童	「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」ができている	90	83▲
		保護者	できていると思う	80	86
	健康安全指導と防災訓練を通して、危険から身を守る力を高める	教職員	きめられた約束事の指導を熱心に行った	90	100
		児童	きめられている約束事をいつも守っている	95	96
		保護者	約束事をいつも守っていると思う	80	91
	家庭と連携し、情報モラル学習とスマートルールの啓発を行う	教職員	きめられた約束事の指導を熱心に行った	90	100
		児童	きめられている約束事をいつも守っている	95	96
		保護者	約束事をいつも守っていると思う	80	88
	業間活動（マラソン・縄跳び）、運動遊びを充実する	教職員	児童への意識づけを十分行った	90	100
		児童	業間マラソンや体力づくりに熱心に取り組んでいる	95	96
		保護者	意欲的に取り組んでいると思う	80	88
確かな学力	学びを支える学習ルールを身に付け、基礎学力の定着と向上に努める	教職員	漢字や計算の練習を毎日実施し、その点検を行っている	90	100
		児童	漢字や計算の勉強に毎日熱心に取り組んでいる	90	79▲
		保護者	漢字や計算の勉強に毎日熱心に取り組んでいると思う	80	84
	国語科教育を核として、言葉の力や思考力・表現力の育成等を行う	教職員	日々教材研究や授業研究を熱心に行っている	100	100
		児童	授業が分かりやすく、楽しい	90	89▲
		保護者	日々の学習内容をよく理解していると思う	80	83
	学び合う、認め合う、深め合う場を工夫し、学びを楽しむ授業づくりを進める	教職員	話し合い活動や発表活動を計画的に実施し、見直しも適宜行っている	90	83▲
		児童	自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりすることが、しっかりできている	90	90
		教職員	ICT機器（パソコン、電子黒板、タブレット）を活用した授業を行っている	90	92
	全ての教科でICT機器の活用に取り組む	児童	タブレットを使って学習することが楽しい	90	96
		教職員	読書活動の習慣化を図る働きかけを十分行っている	90	92
		児童	学校や家で（マンガや雑誌以外の）本を毎日読んでいる	80	51▲
		保護者	学校や家庭でよく本を読んでいると思う	80	41▲
	朝読書、読み聞かせ、家庭読書の日など読書活動を充実し、本を手にする機会を増やす	教職員	読書活動の習慣化を図る働きかけを十分行っている	90	92
		児童	学校や家で（マンガや雑誌以外の）本を毎日読んでいる	80	51▲
		保護者	学校や家庭でよく本を読んでいると思う	80	41▲

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心・特別支援	「いつでも、どこでも、何度でも」を合言葉に「明るく元気なあいさつ」を推進する	教職員	挨拶や返事の指導を意図的・計画的に行っている	90	100	△朝・帰りは自らできる児童が多い。「いつでも・どこでも・何度でも」あいさつする意識が薄い。 △廊下をすれ違っても、会釈やあいさつができる児童が少ない。 △昨年に比べて、職員室の前を通るときにあいさつをしていく児童の数が減った。 △登校してきたときのあいさつの声の大きさが小さくなっている。	・「いつでもどこでも」の意識が高まるよう、努めて教職員もあいさつをするようにする。 ・生活委員会の朝のあいさつ運動は継続する。 ・「あいさつ頑張りカードやシール」など意欲付けになる工夫をしていく。 ・明るく元気なあいさつができるように委員会の発表の場を設け、生活委員会が「あいさつについて」発表し、挨拶の輪が広がるようにする。	・イベント的な取り組み以外にも日常でできることを継続し、良かった時に戻れるようお願いしたい。 ・挨拶が習慣化すると、家庭・地域・学校で互いにコミュニケーションを図ることにより幸せを感じられ、更に助け合いに繋がる。 ・朝一番に「今日は素晴らしい挨拶をしよう」と思い、夜に反省する。人間は誰かに「挨拶が悪い」といわれると腹が立つが、「今日自分はちゃんと挨拶ができたろうか」と思うと心が整う。自分の心が整えば、世界は調い、素晴らしい幸運が来る。互いに挨拶を交わせば、たとえ喧嘩したばかりの二人でもすっきり仲直りしてしまう。挨拶を交わすことで、身も心も温和になる。 ・朝の集団登校時に挨拶してくれるが、子ども時代の挨拶はコミュニケーションの第一歩である。良い意味での「クセ」をつけることで、大人になっても交流できる人になるだろう。
		児童	進んであいさつをしたり、きちんと返事したりしている	95	92▲			
		保護者	進んで挨拶したり、しっかり返事をしたりしていると思う	80	86			
	良好な人間関係を築く力や自己肯定感を培い、いじめと不登校の未然防止に努める	教職員	いじめ防止等の対策にしっかり取り組んでいる	100	100	○保護者会の前にいじめ友だち関係アンケートを行い、児童の困り感を聞き取ることができた。 ○アンケートをもとに教育相談旬間に担任が児童に面談を行い、児童の内面を聞き取り、よりよい学校生活を送れるように支援した。 ○3年以上の全員面談をSCが行った結果、担任では聞き取れなかった情報を得ることができた。きめ細やかな支援につながった。	・終礼で情報を共有し、担任だけでなく、チームで個々に応じた細やかな支援をしていく。 ・SC、SSTとの学校連携が非常に重要になっていて、情報共有をしっかりと行う。 ・SCの全員面談の効果は大きいので、次年度も計画的に継続していく。	・保護者の評価が高くなったのは素晴らしいこと。アンケートを定期的に行い、有効活用されているので安心できると思う。 ・SCとの連携により、個々の児童へのきめ細かな対応に繋がり、人間関係の構築に役立っていると思われる。 ・地区子ども会の活動も、子どもの数が少なく制限され、子ども同士のつながりも希薄になっている。学校主導でこのような時間を作らないといけなのは時代の流れだろうか。
		児童	友だちにやさしくしたり、「ありがとう」を言ったりすることができている	95	93▲			
		保護者	いじめや不登校のない学校づくりに取り組んでいると思う	80	93			
	思いやりの心・認め合う心を育て、笑顔溢れる学校になるよう学校行事、縦割り活動、「なかよしタイム」を通して、心の居場所づくり、絆づくりに取り組む	教職員	思いやりや感謝の心を積極的・計画的に指導している	90	100	○なかよしタイムの活動を児童たちは楽しみにしている。 ○なかよしタイムの内容を掲示した物を児童や保護者が目にしやすい位置に移動した。	・全校で年間を通じて、計画的に毎週取り組むのは人間関係づくりに一定の効果が見られるので、継続していく。 ・なかよしタイムの活動内容を保護者が見る機会があると良い。 ・なかよしタイムのようなSSTの要素を授業に取り入れられると、より学校での人間関係づくりに役立つ。	・子どもたちには、生命の営みは自分一人の生命をいうのではなく、自然と共にある自分、共に生かされている生命であるということを理解してほしい。 ・なかよしタイムの評価が高水準で維持されているのは大変良い。保護者に見る機会を提供するのは良いアイデアである。 ・SSTは「自己肯定感」「いじめ不登校防止」「授業づくり」でも良い影響をもたらすと思う。
		児童	相手の気持ちを考えて話したり行動したりできている	95	98			
		保護者	思いやりや感謝の心がよく育ってきていると思う	80	88			
開かれた学校・連携	ふるさとあわらに愛着をもち、ふるさとを大切にする子を育てるため、ゲストティーチャー、地域、学年間との連携をさらに深めた体験的学習に取り組む	教職員	ふるさとに愛着をもち指導や活動に取り組んでいる	90	90	○コロナ禍が収まり、校外学習の機会を増やすことができた。 ○地域人材をゲストティーチャーを招いたふるさと学習を実施した。 （「あわらの自然を愛する会」「食生活推進委員」「JA婦人部」「市健康長寿課」「市社会福祉協議会」「卯目議員あわらの昔話」・5、6年CM作り（タブレット）	・総合学習担当が中心となり、総合学習（ふるさと学習）について、各学年の記録を残し、年度振り返りを行う。 ・スクールプランの具体的な取組「ふるさとあわらに愛着をもち、ふるさとを大切にする子を育てる」各学年の活動に系統性をもたせる。 見直し案をもとに、次年度年間指導指導計画に低・中・高学年の学習活動の詳細を記載する。	・「本物に触れながらの学び」が戻ってきて、特に「体験を中心としたふるさと学習」に力を入れているのが良い。 ・CM作りであわら市を知り、あわら市の良さを発信することは、大変良いことである。 ・与えられた体験で終わるのではなく、主体的、探求的な活動につなげてほしい。
		児童	あわら市のことが好きになった	90	93	△自分でテーマや課題を決めて、解決を目指す、児童の主体性を生かした学習活動が少なかった。 単発ではなく、「問いを立て→情報収集・整理・分析→解決策を考えて発表する」探求的な学習の要素を増やす必要がある。		・行き詰った時や、寂しい時、安堵と懐かしさ求めて心に去来するものは、いつも故郷やそこに住む馴染みの顔ぶれです。故郷とはどんな自分であっても、その全てを受け入れて安らかな心を与えてくれるところである。
		保護者	あわら市のことが好きになっていると思う	80	92			
	学校の教育活動の様子や情報を積極的に公開する C4thHome&School、各種たより、ホームページを活用し、丁寧な情報発信を行う	保護者	学校公開等により、子どもたちの様子がよく分かった	90	92	○授業公開（4月、11月）、運動会、マラソン大会、縄跳び大会、6年生を送る会、やFacebookで子どもたちの様子を伝えることができた。	令和7年度4月より、新学校ホームページが運用開始予定。旧ホームページとFacebookの情報を一元化することにより、利便性の向上を図る。	・「開かれた学校」の評価が継続して高いところが、芦原小学校全体にわたる良い評価を反映している。 ・保護者の年齢層を考えると、Facebook以外のSNSへの共有があると利便性はより向上するのではないか。
		教職員	情報を迅速・正確に発信している	90	100	△学校から、家庭へ配信する情報が増加している。情報の種類や重要度によって、Home&Schoolと紙面での使い分けしていく必要がある。		
		保護者	知りたい情報をよく知り得ることができた	90	90			